

# 長野市公文書館便り

2024  
Spring

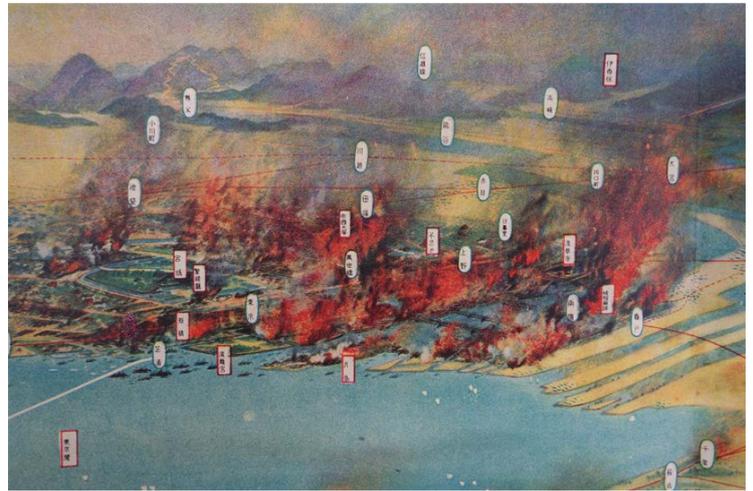
©Nagano City Archives

●発行日：令和6年（2024年）4月22日 ●発行：長野市公文書館

## 「関東大震災100年」 写真資料が伝える篠ノ井での救護活動

大正12年（1923）9月1日午前11時58分、相模湾中央を震源とするマグニチュード7.9の巨大地震「関東大震災」が起きました。死者・行方不明者は推定10万5,000人にのぼり、火災による焼死が多かったようです。それは、ちょうど日本海を北上する台風が来ていて強風が吹く中で、火災が広範囲に発生したためです。東京市内の約6割の家屋が罹災し、多くの住民が東京から避難しました。ところが、東海道・中央両線は不通となっていて、関西方面へ避難するには信越線を利用して篠ノ井経由で向かうほかありませんでした。篠ノ井駅は乗り継ぎ駅として、避難する被災者に加え、安否を確認したい関西圏の人々が集まってきて、大混雑となりました。

その篠ノ井駅前で震災の被災者に対する救護活動が行われていたことは、あまり知られていません。震災翌日の2日夜半より避難する人を満載した列車が駅に到着し、地域の人々が救護にあたりました。どんな救護が行われ、誰が中心となっていたのか、よくわかっていませんでしたが、今回ご寄贈いただいた写真史料（松本満家文書）にその一端を示す書き込みが見つかりました。



吉田初三郎作『関東震災全地域鳥瞰図絵』部分（大阪朝日新聞社）

篠ノ井駅前の救護活動は、内堀組青年会有志が、お茶の接待や炊き出しをしたことが最初です。その後、郡役所・篠ノ井町青年会・更級郡連合青年会・在郷軍人更級郡分会・郡医師会等が役割を分担して行いました。寄贈史料に書かれた文字を解読することで、二つのことが明らかになりました。一つは救護に使われた材料です。白米16石3斗をはじめ、塩・胡麻・漬物・味噌・野菜に加え、衣類、足袋までさまざまなものが救護品として配布されました。もう一つわかったことは、救護活動を行った人々の名前です。駅前にあった更級郡救護事務所の前で撮られた写真には救護活動を主導した人々が写っています。更級郡長須藤信敬、篠ノ井町長滝澤豊馬、青年会長大日方祐三郎、内堀組青年会副会長杵掛真次郎等救護活動の中心になった人たちの名前がわかりました。救護活動に携わった延人数は、1,274人で、そのうち内堀組青年会の出場延人員は512人にのぼりました。救護活動の中心を担っていたのが、青年会だったことを示す数字ではないでしょうか。

関東大震災から、100年が経ちます。歴史はくり返すという言葉通り、本年1月1日にも、能登地方を中心に大きな地震が起きています。過去の出来事から学ぶことはたくさんあります。100年前の人々が示した地域のまとまりや助け合いの姿は、現在に生きる私達にも通じるものがあります。



松本満家文書『更級郡救護事務所前の首脳』（長野市公文書館蔵）

◇掲載内容を紹介しします。(執筆者敬称略)

『市誌研究ながの』第 31 号刊行、発売中！

—令和五年度長野市公文書館講演会—

松代藩の「拾万石御百姓訴訟」(二斗八騒動)を書きとめた「永々代記録」(講師 前長野市公文書館主任専門主事 西澤安彦)

—研究論文—

- 篠ノ井遺跡群(高速道地点)の分析(古代)上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・鳥羽英継
- 天正壬午の乱と旗塚 一陣場は再び使われる・・・・・・・・・・・・・・・・町田ゆかり
- 松代藩の「拾万石御百姓訴訟」(二斗八騒動)と善光寺・・・・・・・・・・・・・・・・西澤安彦
- 宝暦改革の道筋にあったもの —『家老日記』(宝暦五年～七年)『郡方日記』(宝暦四年)の分析を中心に—  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小林佳枝
- 近世村絵図の地図性について — 絵師、計人の存在と絵図描写の特徴 —・・・・・・・・山浦直人・小山丈夫
- 城山の城山館と蔵春閣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・宮澤政太
- 長野市公文書館における館外展示の可能性・・・・・・・・・・・・・・・・竹内久隆
- 長野市の小池沼、河川の淡水微生物相 III —湯福川、堀切沢の付着珪藻類、そして茶臼山地すべり地の淡水微生物相—・・・・・・・・・・・・・・・・落合照雄

—史料紹介—

- 剣術家白井亨(とおる)の肖像画・・・・・・・・・・・・・・・・北澤忠雄
- 幕末期における真田幸民の八幡宮社参及び神主松田家訪問記録について —「慶応二年十月松代殿様拙宅江御入并御社参」の紹介—・・・・・・・・中島丈晴
- 長野市公文書館収蔵資料紹介 医師の日記に見る関東大震災(山本申三日記)・・・・・・・・田玉徳明

◇判型 B5判、本文 232 頁、口絵(カラーグラビア) 16 頁 ◇頒布価格 1,800 円(消費税込み)

日々是文書～スタッフ通信～

【新たな公開資料】

- 「松本満家文書」 5 点
- 「岡澤由晃文書」 414 点
- 「吉田小学校文書」 282 点

【活動記録】

- 1/25 第 3 回文献史料保存活用講習会参加
- 2/1・2 国立公文書館オンライン研修参加
- 2/14 鬼無里へ資料調査
- 2/20 長野県立歴史館へ情報収集
- 3/5 西之門よしのや藤井家資料調査
- 3/13・14 長野市役所非現用文書確認



【レファレンスこぼれ話】長野市の城山(善光寺東側)一帯について中世からの歴史に関する資料を紹介してほしいと、依頼がありました。調べてみると、断片的な歴史の紹介にとどまるものがほとんどでした。そうした中で、城山一帯の歴史について連載した『長野』(長野郷土史研究会)と「館報城山」(長野市立城山公民館)、『市誌研究ながの』31号(長野市公文書館)掲載の「城山の城山館と蔵春閣」が大変参考になりました。城山一帯の公園は、長野公園、城山記(紀)念公園、新公園へと明治から大正期にかけて拡大していきます(『長野市誌』第 16 巻参照)。その変遷を当館所蔵の地図や写真でたどってみると新たな発見があるかもしれません。

長野市公文書館

所在地 〒380-0928 長野市若里六丁目6-2 長野市若里分室内  
 電話 026-224-0701 F A X 026-224-0702  
 HomePage <https://www.city.nagano.nagano.jp/kobunsho/index.html>  
 又は  で検索  
 E-mail kobun@city.nagano.lg.jp  
 開館時間 午前9時から午後5時(閲覧申込みは午後4時30分まで)  
 休館日 土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日  
 年末年始(12月29日～1月3日)

こんなときにはご相談ください。  
 ・古い土蔵などを取り壊すので、所蔵資料を寄贈・寄託したい。  
 ・所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。